

令和5年度 安全管理推進大会 を各地区で開催！

〈スローガン〉「高める意識と安全行動 築こうみんなのゼロ災職場」

令和5年度全国安全週間を前に、準備期間である6月に、沖縄県労働基準協会の各支部と関係労働災害防止団体等の共催、各労働基準監督署の後援により、各地区において安全管理推進大会が開催されました。「人命尊重」の基本理念の下、自主的な労働災害防止活動を推進し、安全意識の高揚と安全活動の定着を図るべく、各地区の大会に多くの事業場が参加しました。

那覇地区

6月8日(木)にアイム・ユニバースてだこホール(小ホール)にて令和5年度安全管理推進大会を開催し、83事業所157名が参加しました。

参加者全員で黙祷を捧げたあと、開会あいさつした仲西労働基準協会那覇副支部長は、昨年の県内における休業4日以上死傷者数が過去最多となったことにふれ、「この深刻な状況を重く受け止め、各事業場で安全管理対策に継続的に取り組んでほしい」と呼びかけました。

安慶名那覇労働基準監督署長からは、「労働基準監督署では、労働災害の未然防止に向けて各企業や現場に赴くほか、災害が発生した場合には原因の究明と対策を講じていただく指導をさせていただいています。また、負傷された場合など労災補償給付の調査の過程では、後遺障害に苦しむ被災者、介護にあたる被災者家族、或いは大黒柱を失った遺族と面談することも少なくありません。皆様方ご自身や同僚、部下の方々が労働災害に遭わないように、安心・安全な職場づくりに向けて、労使ともに認識を一つに取り組んでいただきますよう切にお願いいたします。」との来賓あいさつがありました。



児玉那覇監督署安全衛生課長からは、全国安全週間に向けての取り組み、転倒災害、はしご・脚立の転落災害防止等について説明がありました。

沖縄パナソニック特機(株)の取締役 エンジニアリング本部長の新垣安敏氏より「我が社の安全管理活動」と題して、自社の安全管理体制や安全管理目標等についての事例発表がありました。



また、建災防沖縄県支部浦添・西原分会の安全指導員を中心に参加者全員で安全週間スローガンに向かい指差唱和が行われ、労働災害ゼロへの決意を新たにしました。大会宣言が、沖縄産業保健総合支援センターの玉那覇副所長より読み上げられ、参加者全員が労働災害のない安全に働くことができる職場環境を築くことを宣言しました。



中部地区

6月7日(水)、沖縄市産業交流センターにて令和5年度中部地区安全管理推進大会を開催し、75事業所137名が参加しました。

参加者全員で黙とうを捧げたあと、共催者を代表して金城労働基準協会中部支部長のあいさつで開会し、金城支部長からは、大会を機に労働者一人一人が安全に働くことが出来る職場環境を築けるよう取り組んでいただきたい旨呼びかけがありました。

比嘉沖縄労働基準監督署長からは、「本年は3月までに労働災害により3人の方が亡くなっている。労働者の命が失われ、健康を害することは、労働災害の発生は単に労働力の損失という面だけではなく、社会的・人間的な重要な問題である。労働災害の絶滅を図るためには、労働者の安全と健康の公共的価値を認識し、長期的な視点にたって労働災害対策をなお一層推進しなければならない。今年度からスタートした第14次労働災害防止計画では、これまでの計画でも取り組んできた業種等に応じた災害防止対策に加えて、各労働局単位で新たに設立した「SAFE協議会」などの新たな枠組みを活用し、労働災害・疾病防止に取り組むので皆様方にもご協力頂きたい。また安全週間期間中、職場においては様々な取り組みや行事が行われますが、経営トップの安全への所信表明については道標にもなるので、ぜひ行って頂きたい。」旨の来賓あいさつがありました。

